

菅野佑太くん(臼小)が 陸上県選考会100mで優勝



▲県大会で優勝した菅野君

7月21日に福島市の県営あづま陸上競技場で行われた全国小学生陸上競技交流大会県選考会で、臼石小学校5年生の菅野佑太くん(松塚)が13秒99のタイムで優勝し全国大会への切符を手に入れました。

福島陸上競技協会、県都市公園協会主催のこの大会は、小学校5年生100mの種目に県内の予選を勝ち抜いた72人がエントリー。佑太くんは県内の強豪がひしめく中、自己ベストとなる13秒99を記録し、見事優勝を勝ち取りました。

小4の時に父さんに勧められて陸上を始めたという佑太くんは、全国大会への抱負を「決勝に残って優勝し、先生方に喜んでもらいたいです」と話していました。

全国大会は8月23日から25日の日程で、東京都の国立競技場で行われています。

お祭りでは、飯樋町老人クラブ有志によるチンドン屋を始め、お神輿やはなづか太鼓、YOSA KOI踊り、お年寄りたちによるハンドベルの演奏などが行われ、祭りに華を添えていました。

お年寄りとその家族らは、焼きそばやかき氷などの模擬店で一緒に焼きそばなどを買い求め、最近のわが家の様子や体の調子などを話しながら、家族と過ごす夏の夜を楽しんでいました。

県内のライバル抑え
全国大会へ

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。

身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場企画室 TEL42-1613



▲夏祭りを楽しむお年寄りたち



いいたてホームの夏祭り 家族と祭りを楽しむ

8月2日、いいたてホーム恒例の夏祭りが行われ、お年寄りたちは家族との再会を楽しみました。

ホームの前庭を会場に行われたこのお祭りには、お年寄りとその家族らが、浴衣やはっぴ姿などで参加、お祭りムードを盛り上げていました。

20の リレーマラソン



佐藤純一さん
東京都在住
(上飯桶出身)

◆自覚

僕は、東京に出て半年になります。最初の頃は仕事に慣れる事がなかなかできなくて、ずいぶん悩みました。でも、自分の選んだ道なので、後悔はしてもしようがないと割り切って考え、仕事をしていました。

そして仕事に少しずつ慣れてきた頃、成人式の案内のハガキが届きました。僕はそれまで毎日、1日1日をただ過ごしていたのですが、そのハガキが来た時に、(もうすぐ成人になるんだ

なあ)と実感し、社会人として自覚を持ち将来のことを考えていかなければいけないと思いました。

1月、成人式を迎えて誰ともなく「これからは自分のことは自分でしなさい」と言われて、そんなこと当たり前だとその時は思っていました。でも、ことあるごとに親にいろいろしてもらっている自分に気付き、僕も、まだ何かしら人にしてもらわないと何もできない人間だと気付きました。

そして、そんなことからふと考え思いました。成人式を迎えてすぐ立派な社会人というのではなく、ちょっとずつ社会の責任、自覚が芽生え、独り立ちをしていく、そうして本当の意味での社会人になっていくものだ。

そしてこれから多くの人に支えられて生きていく、そのことに對し感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

飯館村体育協会(赤石澤正信会長)主催による夏のスポーツの祭典「スポーツカーニバルベラーノ2002」は、8月24、25日、いいたてスポーツ公園を会場に行われました。



◀24時間走った仲間が一斉にゴール

スポーツカーニバルベラーノ2002

24Hリレーマラソンでなどに650人が参加

今年のスポーツカーニバルは、おなじみとなった24時間リレーマラソンや、親子リレーマラソンのほかに、グラウンドゴルフ、サッカー、キックターゲット、握力チャレンジなど「お祭り」らしい催しも多数加わりました。

このうち、24時間リレーマラソンでは、6組の参加チームのほかに一般参加者を加えた述べ200人が、24日正午から翌25日正午までの24時間、距離にして述べ1452キロメートルを走りきりました。また、親子リレーマラソンでは5組の親子が一緒に手をつないで1キロメートルのコースを走り、親子の絆を深めました。

このほか、スポーツカーニバルが行われた2日間、草野ミニデイサービスのヘルパーの皆さんが作った豚汁が参加者全員にふるまわれ、参加者らは心のこもった豚汁をおいしそうに食べ、心身の疲れを癒していました。